

単元名

ユーラシアの動きと武士の政治の展開

1. 単元のねらい

モンゴル帝国の拡大とモンゴルの襲来、南北朝の動乱、室町幕府の成立・展開、応仁の乱、戦国大名を取り上げていくが、単元を貫く課題として「東アジアでの交流が進み、産業や文化が発達する中で、日本ではなぜ多くの戦乱が起こったのだろうか。」とした。鎌倉政権が滅び、室町政権が武士の政権として初めて全国に展開していく。しかし、一方でこの時代は大きく見れば、波乱や争乱の時代であった。その背景として経済の変動・発展、民衆の成長、東アジアを中心とする海外の影響・交流などがあることを捉えさせる。また、室町文化については、産業の発展と民衆の成長によって、地方の文化が発達したこと、この頃の文化が今日の文化につながっていることを捉えさせたい。

2. 単元の評価基準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 元寇などを基に、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解できる。 南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 農業などの諸産業の発達、機内を中心とした都市や農村における自治的な仕組の成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流、農村や商工業の発達などに着目して、事象を相互に関連付けるなどしてユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ユーラシアの交流、武家政治の展開と東アジアの動き、民衆の成長と新たな文化の形成について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

●学習改善につなげる評価 ○評定に用いる評価

	1	2	3	4	5	6	7
知識・技能	●		●	●			●
思考・判断・表現		○			●	○	
主体的に学習に取り組む態度	○					○	

3. 単元構造図 (全7時間) ☆基礎的・基本的な知識, 概念や技能

<p>[単元名] ユーラシアの動きと 武士の政治の展開</p>	<p>[単元学習前の生徒の認識] 鎌倉時代, 北条時宗が執権のころに元寇があって, それが原因で幕府が終わって室町幕府ができていったことは小学校でも習ったけれど, どうして元寇に勝ったのに鎌倉幕府は終わってしまったのだろう。そして, どうやって室町幕府ができたのだろう。室町幕府の後は戦国時代で, 日本中で大名が戦いをしていたけれど, どうして戦国時代になっていったのだろう。</p>		
<p>第1時 モンゴル帝国とユーラシア世界 【●知識・技能 ○主体的に学習に取り組む態度】 モンゴル帝国が広がっていき, どんな変化があったのだろう。 ☆モンゴル帝国(元) ☆ユーラシア</p> <p>モンゴル帝国は, ユーラシア各地の民族や言語を認め, 陸上だけでなく海上の交通路を整えた。それによって, 貿易や文化の交流は, ユーラシア全体に広まった。一方で, 日本ではこの後に戦いが増えていくけれど, それはなぜなのだろう。(単元の課題)</p>			
<p>東アジアとの関係を通して発展した日本の中で、なぜ多くの戦乱が起こったのだろう。</p>	<p>第2時 モンゴルの来襲 【○思考・判断・表現】 元寇によって, 日本はどうなったのだろう。 ☆文永・弘安の役 ☆徳政令 ☆後醍醐天皇 ☆足利尊氏</p> <p>元寇は, 高麗との対立や御家人の活躍, 幕府が海岸に築いた防壁や暴風雨の影響によって, 失敗に終わった。日本では, 成果に対して与える土地が足りず, 幕府は徳政令を出して御家人を助けようとしたが, 効果はなく, 北条氏の独りよがりな政治によって, 御家人の不安が高まって, 後醍醐天皇たちによって幕府は倒された。</p>		
	<p>第3時 南北朝の動乱と室町幕府 【●知識・技能】 鎌倉幕府が減んで, 政治や社会はどうなったのだろう。 ☆建武の新政 ☆南北朝 ☆室町幕府 ☆管領後 後醍醐天皇による建武の新政の後に, 足利尊氏と対立して2つの朝廷ができて, 南北朝が始まった。その後, 足利尊氏が室町幕府をつくり, 義満によって南北朝が統一された。役所などの仕組みは鎌倉幕府を受けついでいるが, 有力大名が管領として将軍の補佐をしたり, 幕府の政治を担当したりするようになった。</p>	<p>第4時 東アジアとの交流 【●知識・技能】 明や朝鮮との交流の中で, 日本で何が起きたのだろう。 ☆倭寇 ☆日明(勘合)貿易 ☆中継ぎ貿易 明とは朝貢の形の貿易で, 倭寇と区別するために, 勘合を使った日明貿易が始まった。朝鮮とも幕府や大名が中心となって貿易した。琉球王国の中継ぎ貿易でアジアとも貿易した。アイヌ民族との貿易も行った。</p>	
	<p>第5時 産業の発達と民衆の生活 【●思考・判断・表現】 室町時代では, 産業の発達で人々の生活がどのように変わったのだろう。 ☆馬借 ☆座 ☆惣 ☆土一揆</p> <p>農業では二毛作が始まり, 商業では市場で定期市が開かれた。力のある農民を中心に惣ができて自治が行われるようになり, 土一揆などが起こるようになった。</p>	<p>第6時 応仁の乱と戦国大名 【○思考・判断・表現】 ○主体的に学習に取り組む態度】 なぜ応仁の乱は長く続いたのだろう。 ☆応仁の乱 ☆下克上 ☆一向一揆 ☆分国法 家来が主人に打ち勝つ, 下克上の状況が広がった。そのため, 何回も大名が変わることになり, 戦いは長く続いた。</p>	
	<p>第7時 室町文化とその広がり 【●知識・技能】 室町文化にはどんな特色があったのだろう。 ☆寝殿造 ☆書院造 ☆水墨画 ☆御伽草子</p> <p>能や狂言, 茶の湯など, 貴族の文化と武士の文化が混じり合っており, 貴族や武士だけではなく, 一般の人々にも広まった。</p>		
	<p>[単元学習後の生徒の認識] 元寇がきっかけになって, 多くの戦乱が起こった。日本は2度にわたる戦乱を乗り切ったが, 土地不足によってご恩と奉公の関係が崩れた。そのため, 鎌倉幕府を倒す戦乱が起こった。その後, 室町幕府ができたが, 将軍の後継ぎ問題によって, 応仁の乱が起きた。その中で下克上が広まっていき, 戦国時代になっていった。だから, 長く戦乱が続いたのは, 政治を動かす人物が絶えず入れ替わっていたからだと分かった。この後, どうやって戦乱はおさまっていくのだろう。</p>		

◇：資料

時	ねらい	学習活動	評価規準	資料および留意点
1 モンゴル帝国とユーラシア世界	<p>モンゴル帝国の拡大について調べる活動を通して、ユーラシア全体を一つにする動きがあったことに気づき、「東アジアとの関係を通して発展した日本の中で、なぜ多くの戦乱が起こったのだろう。」という単元を貫く課題に見通しをもって主体的に取り組もうとすることができる。</p> <p>★チンギス・ハン ★モンゴル帝国 ★フビライ・ハン ★元 ★ユーラシア世界 ★マルコ・ポーロ</p>	<p>1 モンゴル帝国の広がりについて説明し、課題化する。</p> <p>モンゴル帝国が広がっていき、どんな変化があったのだろう。</p> <p>2 資料をもとに、モンゴル帝国がユーラシアに与えた影響について読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> フビライ・ハンは、中国やチベットの文化を取り入れている。 モンゴル帝国は、他国の文化も大切にしていた。 ヨーロッパに日本のことが伝わっている。 ユーラシア全体が1つになっている。 <p>3 モンゴル帝国がユーラシアの文化や貿易を1つにしたことを理解して、単元を貫く課題を設定する。</p> <p>モンゴル帝国は、ユーラシア各地の民族や言語を認め、陸上だけでなく海上の交通路を整えた。それにより、貿易や文化の交流は、ユーラシア全体に広まった。一方で、日本ではこの後に戦いが増えていくけれど、それはなぜなのだろう。</p>	<p>モンゴル帝国の拡大によって、ユーラシア全体を一つにする動きがあったことを理解して、単元を貫く課題をつくっている。</p> <p>知識＝資料読み取りの様子 態度＝授業の様子</p>	<p>◇モンゴル軍の騎兵 ◇モンゴル高原 ◇チンギスハン ◇モンゴル帝国の拡大 ・ユーラシアという名前をおさえる。 ・帝国がユーラシアの大部分に拡大したことを ◇フビライ・ハン ◇モンゴル帝国の通行証 ◇西方にもたらされた陶器 ◇マルコポーロが記した日本</p>
2 モンゴル襲来	<p>元寇について調べる活動を通して、御家人の動きに着目し、日本に与えた影響について考察し、表現することができる。</p> <p>★北条時宗 ★文永の役 ★弘安の役 ★徳政令 ★後醍醐天皇 ★足利尊氏</p>	<p>1 元寇が起きたことを知って課題化する。</p> <p>元寇によって、日本はどうなったのだろう。</p> <p>2 資料から元寇が与えた影響を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 防壁で日本を守りきった。 2回攻めてきたが、守りきった。 借金をなくして御家人を救った。 戦いには勝ち、徳政令で御家人を救った。 <p>3 その後どうなったのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 御家人を助ける必要があった。 幕府から「ご恩」をもらえず困った。 信頼関係がくずれ、幕府は滅んだ。 <p>元寇は、高麗との対立や御家人の活躍、幕府が海岸に築いた防壁や暴風雨の影響によって、失敗に終わった。日本では、成果に対して与える土地が足りず、幕府は徳政令を出して御家人を助けようとしたが、効果はなく、北条氏の独りよがりな政治によって、御家人の不安が高まって、後醍醐天皇たちによって幕府は倒された。</p>	<p>元寇を通して、御家人の動きに着目し、日本に与えた影響について考察し、表現している。</p> <p>思考＝ノート の記述内容</p>	<p>◇元軍との戦い ◇北条時宗 ◇復元された防壁 ◇モンゴルの襲来 ◇永仁の徳政令 ・「戦いの結果」と「その後」の2つの視点で考えさせる。 ・「ご恩」と「奉公」関係に着目させる。 ・後醍醐天皇と足利尊氏の動きについて補足説明する。</p>
3 南北朝の動乱と室町幕府	<p>鎌倉幕府が滅んだ後の政治や社会について読み取る活動を通して、守護大名の出現に気づき、建武の新政から室町幕府の成立までの経過を理解できる。</p> <p>★建武の新政 ★南北朝時代 ★室町幕府 ★室町時代 ★守護大名 ★足利義満 ★管領 ★土倉</p>	<p>1 建武の新政について知り、課題化する。</p> <p>鎌倉幕府が滅んで、政治や社会はどうなったのだろう。</p> <p>2 資料から、政治と社会の変化を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの朝廷ができたが、後醍醐天皇は京都を離れた。 足利氏が室町幕府をつくった。 足利義満が朝廷を統一した。 守護大名が出てきた。 <p>3 守護大名について知る。</p> <p>後醍醐天皇による建武の新政の後に、足利尊氏と対立して2つの朝廷ができて、南北朝が始まった。その後、足利尊氏が室町幕府をつくり、義満によって南北朝が統一された。役所などの仕組は鎌倉幕府を受けついでいるが、有力大名が管領として将軍の補佐をしたり、幕府の政治を担当したりするようになった。</p>	<p>鎌倉幕府が滅んだ後の政治や社会の様子を通して、守護大名の出現に気づき、建武の新政から室町幕府の成立までの経過を理解している。</p> <p>知識＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇後醍醐天皇 ◇南北朝の分裂 ◇足利氏の系図 ◇鎌倉幕府の仕組み ◇室町幕府の仕組み ◇主な守護大名 ◇足利義満 ・北朝側に尊氏がいることをおさえる。 ・守護大名の役割と、管領について説明する。</p>

<p>4 東アジアとの交流</p>	<p>東アジアとの交流について読み取る活動を通して、明や琉球王国、蝦夷地との交流について理解できる。</p> <p>★明 ★倭寇 ★日明貿易(勘合貿易) ★朝鮮国 ★琉球王国 ★中継貿易 ★アイヌ民族</p>	<p>1 東アジアの国々との交流について知り、課題化する。</p> <p>幕府や大名は、明や朝鮮とどのように交流をしたのだろう。</p> <p>2 東アジアとの交流について読み取る。 ・倭寇対策のために、明と勘合貿易をした。 ・朝鮮とは、幕府や守護大名が貿易をした。 ・琉球王国やアイヌ民族とも貿易をした。</p> <p>3 明と他国との交流との違いを考える。 ・明とは朝貢の形で貿易をした。</p> <p>明とは朝貢の形の貿易で、倭寇と区別するために、勘合を使った日明貿易が始まった。朝鮮とも幕府や大名が中心となって貿易した。琉球王国の中継ぎ貿易でアジアとも貿易した。アイヌ民族との貿易も行った。</p>	<p>東アジアとの交流を通して、明や琉球王国、蝦夷地との交流について理解している。</p> <p>知識＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇室町時代の主な交易路 ◇倭寇と明軍との戦いと勘合 ◇ハングル ◇琉球の勢力と首里城、鐘の銘文 ◇和人の館と勝山館 ・明と朝鮮、琉球王国、蝦夷地の3つに分けてまとめる。</p>
<p>5 産業の発達と民衆の生活</p>	<p>室町時代の産業について読み取る活動を通して、農業や産業の発達に着目して、畿内を中心に自治的な組織が生まれたことについて考察し表現できる。</p> <p>★馬借 ★問 ★座 ★惣 ★土一揆</p>	<p>1 当時の田植えの様子から課題化する。</p> <p>室町時代では、産業の発達で人々の生活がどのように変わったのだろう。</p> <p>2 資料から産業の発達と人々の生活の変化について読み取る。 ・農業など生産量が増え、産業が発達した。 ・農民が自分たちで村を治めた。 ・農民が抗議するようになった。</p> <p>3 課題に対する考えを交流する。</p> <p>農業では二毛作が始まり、商業では市場で定期市が開かれた。力のある農民を中心に惣ができて自治が行われるようになり、土一揆などが起こるようになった。</p>	<p>産業について読み取る活動を通して、農業や産業の発達に着目して、畿内を中心に自治的な組織が生まれたことについて考察し表現できる。</p> <p>思考＝ノートの記述内容</p>	<p>◇田植えの風景 ・産業であることをおさえる。 ◇産業の様子 ◇村のおきて ◇土一揆の宣言 ・資料に本文の解説を付け加える。 ・3つの資料から何が言えるのか考えさせる。</p>
<p>6 応仁の乱と戦国大名</p>	<p>応仁の乱が長く続いた理由を考える活動を通して、下克上に着目して表現できる。</p> <p>★足利義政 ★応仁の乱 ★下克上 ★一向一揆 ★戦国大名 ★戦国時代 ★分国法 ★城下町</p>	<p>1 応仁の乱について知り、課題化する。</p> <p>なぜ、応仁の乱は長く続いたのだろう。</p> <p>2 資料から社会の変化を読み取る。 ・将軍の後継ぎ争いがきっかけだった。 ・全国に戦国大名が生まれた。 ・国ごとにルールが決められていた。</p> <p>3 応仁の乱が長く続いた理由を考える。</p> <p>家来が主人に打ち勝つ、下克上の状況が広がった。そのため、何回も大名が変わることになり、戦いは長く続いた。</p>	<p>応仁の乱が長く続いた理由について、下克上に着目して表現している。</p> <p>思考＝話し合いの様子 態度＝授業の様子</p>	<p>◇応仁の乱 ・11年にも及ぶ戦闘期間であったことに触れる。 ◇応仁の乱開始時の対立関係 ◇主な戦国大名 ◇分国法の例 ・下克上について説明する。</p>
<p>7 室町文化とその広がり</p>	<p>室町文化の特色について読み取る活動を通して、貴族と武士の文化が混じり合い、一般の人々にも広まった文化であることを理解できる。</p> <p>★室町文化 ★金閣 ★能 ★書院造 ★水墨画 ★銀閣 ★狂言 ★御伽草子</p>	<p>1 金閣と銀閣を通して課題化する。</p> <p>室町文化にはどんな特色があったのだろう。</p> <p>2 室町文化の特色について読み取る。 ・1つの建物の中で造り方が違う。 ・貴族のような行事がある。 ・一般の人々も楽しんでいる。</p> <p>3 他の作品について知る。</p> <p>能や狂言、茶の湯など、貴族の文化と武士の文化が混じり合っており、貴族や武士だけではなく、一般の人々にも広まった。</p>	<p>室町文化の特色について、貴族と武士の文化が混じり合い、一般の人々にも広まった文化であることを理解している。</p> <p>知識＝資料読み取りの様子</p>	<p>◇金閣と銀閣 ◇金閣の建築様式 ◇連歌の歌会の様子 ◇能と風流踊り ・関わる人に着目させる。 ◇御伽草子 ◇龍安寺の石庭 ◇雪舟の水墨画</p>

